

災害の歴史を未来に伝える媒体として、一番いいのは口承伝承であるが、語りを商売にしない限り、次第に伝わらなくなっていく。今では様々な記録は電子データがそれをカバーしている。ところがこれは電源がないとみる事ができない。やっぱり紙で残すのが一番いいという結論に達する。しかし紙も劣化したり、火事で燃えてしまうこともある。となると石にかなうものはない。先人は後世に絶対伝えたいことは石に刻んだ。それでは池田町に災害記念碑はあるでしょうか。



S44 高瀬川右岸北細野にて堤防決壊
左が切れた堤防（大町建設事務所）

災害はどこで起きるのか

頻繁に起きている災害は、伝承などなくとも「あの沢は水が溢れる」とかみんなが知っている。「災害は忘れたころにやってくる」の言葉のように、大きな災害は頻繁に起きるわけではなく、言い伝えが途切れてしまふ。そこで登場したのがハザードマップである。言い伝えがなくともどこが危険であるかがわかるように行政がランクをつけて示した地図である。以前にも砂防法（明治30年）や、土石流、地すべり、がけ崩れの危険個所の把握、周知の通達（昭和41年）出てはいた。

1990年頃より日本では自然災害における災害発生規模の予測が困難であることがいわれるようになり、今まで構造物を築いて災害に対応してきた防災をあきらめ、人命を最優先とする避難に切り替えた。つまり国民の生命と財産を守るから財産がなくなった。そうして私たちが避難に必要な基礎資料として、2025年に水防法、土砂

災害防止法を一部改正してハザードマップの配布が義務付けられた。

ハザードマップには洪水、内水、津波、高潮、土砂災害、火山噴火、都市における地震などがあります。池田町には洪水、土砂災害があり、内水はまだ整備されていません。洪水では高瀬川が決壊した場合、どのくらい浸水するか色分けで示されています。これには2種類あり、計画最大雨量（概ね100年に1回程度）と想定最大雨量（概ね1000年に1回程度）で洪水が発生した場合の浸水深さです。高瀬川の堤防は100年に一度の降雨には耐えられるようにしていますが、十分ではありません。最近「いまだかつて経験したことのない雨です。命を守る行動をとってください」というニュースを聞くことがあります。これが想定最大雨量のハザードです。

川 柳

SNS党デマ八百で大躍進
残る歳自己ファーストで生きようか
ダイエツト分けてあげたいガザの子に
守 山茶 徳子



読者・むせない工夫を！
「最近声がしゃがれて」と、喋ることがおっくうになったら要注意です。特に男性に多いと言われていますが、年令と共に咽頭の筋肉、呼吸にかかわる筋肉の低下も考えられます。飲み込む力と同様、日頃からの予防として声を出す習慣が大切です。1日30分の会話、不可能であれば新聞・本などの音読での声出しも良いです。より効果があるのは風呂場での歌です。蒸気あり・大きな声OK・好きな歌で央惑、ま効果友達です。

前回、食事前の深呼吸ゆっくり3回と書きましたが、日々の生活は前かがみが多く肩・首が丸くなり呼吸も浅くなっています。時々首を回す、後ろに傾けるなどを習慣にしてみたら良いと思います。

（薄井百子）

読者の声

来々4月から開設される予定の民間保育園「ネイチャーセンター」（長野市の有限会社）の説明会に参加しました。ネイチャー（自然）保育って？を聴きたかったからです。長野、飯田、茅野市他でも開園。屋外での遊びを中心に子どもの発育を進めるとのこと興味がありました。定員25人（3～5歳19人・未満児6人）保育士7人で町外からの入も可。町内児の保育料は現在と同額。入園後池田町に住んでもらえないですね。

（50代女性）

自衛隊、米に「核の脅し」要求 日米机上演習对中国

自衛隊と米軍が昨年実施した「台湾有事」想定での最高レベルの机上演習で、中国が核兵器の使用を示唆する発言をしたとの設定に、自衛隊が米軍に「核の脅し」で対抗する様再三求めた事が27日、政府関係者への取材でわかったと信毎が報道しました。

演習はコンピューターシミュレーション「キーン・エッジ」で昨年2月に行なわれ仮想敵国を初めて中国と明示し、シナリオは事前に日米の限られた担当者が作成し、実際の地図も使った従来よりも各段に実践的なものです。中国による核の脅しも初めて加えたシナリオ。演習の中で防衛省制服組トップの吉田圭秀統合幕僚長は、米軍司令官に「中国の脅しには米



米軍沖縄基地

求し、米指揮官は抵抗したが最後は同意したとおことです。核兵器使用の危険を高めるような作戦を統合幕僚長が独断で主導したとしたら、重大な規律違反であり、シビリアンコントロールを破壊するものです。日本は広島長崎と2回も悲惨な被害を受け、核兵器の廃絶を世界に向

沖縄の今、参議院選挙を終えて

沖縄では、6月23日が近くと地元の新聞は個人の戦争体験記事を載せます。集団自決で生き残った生の声です。飢えの中、日本兵から食料を出せと言われ差し出した後に壕から追い出された話し。生々しい死体の現実。米兵に保護された収容所で死体の埋葬をさせられ、多くの死体を一つの穴に埋めた経験など。後に遺族が遺骨を探しにきても見分けられず、丁寧にできなかったことを悔やむことも。連日このような記事をシリーズで企画する地元紙が他にありません。沖縄の地上戦は人々の心と身体に想像以上の傷を残しているのに、再び沖縄を

って呼びかけ、運動を深めているのです。国民の意志に真向から反する行為です。中国を仮想敵とし「台湾有事」を理由に日本の南西諸島を要塞化して軍事対決をエスカレートさせています。しかし台湾の人々は普通に暮らし、特段の緊張感など無いように感じます。日本は中国との対話を強め緊張を緩和し軍事衝突を避けることこそが真の安全保障だともいいます。



戦場にしようとする政治家や国家権力の動きには恐怖を感じざるを得ません。戦争の美化は絶対に許せません。先月の参議院選挙でオール沖縄の「たからサチカ」氏が当選し大いに喜びを分かち合いましたが、参政党に10代、30代の4割が流れたと知りました。生まれた時には基地があり戦闘機は当たり前環境において、「基地問題より暮らし」が選挙の焦点になったと分析する評論家もいます。沖縄において「平和教育を考え直す」意見もある中、若者と共に考える時代がきたのかもしれない。

（沖縄在住 遠藤泰子）

8月戦後80年となった▼梅雨の巻き戻しの後また猛暑がやってきた。異常な現象は気象ばかりではない、大戦後世界の主流は平和と人権の尊重であったはずだがそれに逆行する動きが世界でそして日本でも起こっている。ウクライナで又ガザの惨状は言えないような怒りを覚える▼アメリカ発の○○ファーストや排外主義の流れは日本でも、ウソデマ平気で外国人を差別する政党が大躍進するなど大きな影響を与えている▼軍備増強の動きも急である。植民地支配と侵略を美化し、集団的自衛権行使を容認、安保法制を整えた安倍内閣以来岸田、菅内閣は敵基地攻撃能力の保有を明確にした。専守防衛（盾）だった自衛隊を攻撃（鉾）にするということだ。5年間で43兆円もの防衛費を投入する計画は、今年が3年目である。攻撃能力の保有とは攻撃されることを容認したことになる。軍備対軍備の悪循環はいづれは戦争の道を歩むことになる。戦争は自らの被害と相手の加害があることを再認識し平和共存の世界にしたい。